

病害虫診断

スマホで簡単検索

九州大学と福岡県のJA糸島などは共同で、スマートフォン（スマホ）を使った病害虫検索システムの開発に乗り出した。病害虫の発生状況をスマートフォンのカメラで撮影し、画像を送ると

福岡・JA糸島
九大などシステム

データベース化された情報を基に自動的に病徴などが一致する画像を選び、情報を返信する仕組み。さらに、営農指導員などがインターネット上で画像を確認して営農指導に使う。

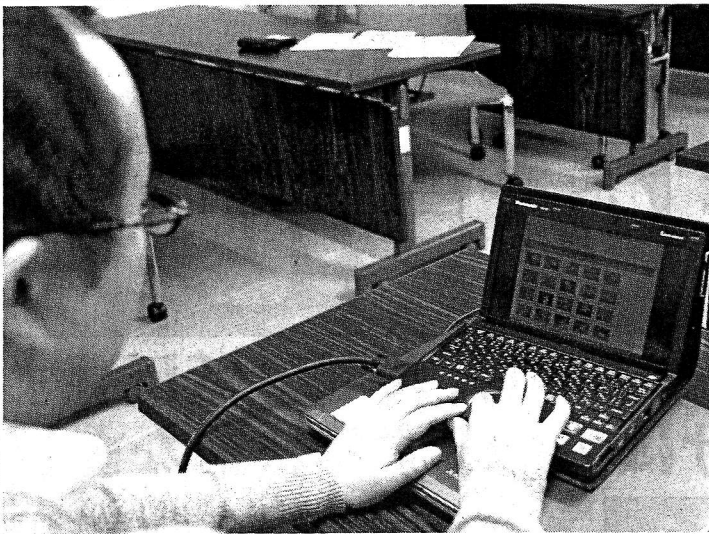
来月から 指導迅速に 試験運用

検査システムは同大と「インター、糸島市、JAで農家、県福岡普及指導センター」組織する「アグリコラボ

いとしま」で開発する。システムは総務省の事業で同大大学院システム情報科学研究院の高野茂助教が開発した「植物図鑑検査システム」を活用する。

同システムはスマートフォン（心用）ソフトを使い、撮影した野草の画像をインターネット上に設けたソーシャルネットワークワークス（SNS）へ送信すると、画像の色の割合や形、撮影場所などから素早く自動で類似する植物を回答する。さらにSNSに参加する専門家が回答の追加やアドバイスをする。

インターネット上で送られた画像を確認し、病害虫の防除指導などが可能になる



索する。さらに、指導員が閲覧し、きめ細かな指導につなげていく。佐藤助教は「人の知恵を借りることで精度を高める」と説明する。

画像は撮影場所や日時がデータ化できるため、地域内で利用が増えれば、病害虫の発生範囲の確認ができ、予察に使える。

また、地域の発生状況が素早く把握できれば、イチゴと露地野菜を中心に営農指導員がデータを集めてるJA糸島は「電話で相談を受けた時、画像が確認できれば適切な指導ができる。第一段階の防除が素早くできるメリットは大きい」と、営農指導のスピード化に期待する。

用すれば圃場（ほじょう）ごとの病害虫発生履歴などデータ化が可能だ。

SNS上の営農指導体制の構築など課題は残るが、2月末までJAと指導センターの指導員が病害虫の画像データを収集する。3月から試験的に運用を始め、精度を高めながら2011年度末の完成を目指す。スマートフォンのほか、既存の携帯電話のカメラとメール機能を使えば、システムの利用ができるため、普及に期待する。

2011年2月12日

13面

日本農業新聞